

# 漁況予報 いわし

## 第157号

2010年1～2月漁期  
(2010年1月19日発行)

### ＝ 概況 ＝

#### 【まいわし】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、11月が21トン、12月が73トン（速報値）で、11月は前年（11トン）を上回ったものの平年（33トン）を下回り、12月は前年（4トン）および平年（6トン）を大幅に上回りました。これは11月下旬から相模湾内に黒潮からの暖水が波及し、それにともない沖合から1歳魚主体の群が来遊したためと考えられます。

魚体は、18～20cmの大羽マイワシ（2008年級・1歳魚）が主体で、15～17cmの中羽マイワシ（2009年級・0歳魚）も入網しました。

佐島地区のまき網は、12月に相模湾内で久しぶりにまとまった漁獲があり、11、12月の合計漁獲量は575トンでした。これは過去10年の同時期の漁獲としては、2001年（2,516トン）に次ぐ大漁でした。

2009年の総漁獲量は主要定置網が963トン、まき網が704トンの合計1,667トンで、好漁だった前年（1,522トン）および平年（1,083トン）を上回りました。漁獲の大半は2月、5月、12月に集中しましたが、これはいずれも暖水波及にともない沖合から豊度の高い2008年級群主体の群が来遊したためと考えられます。一方、春季に沿岸域で発生した2009年級群は豊度が低く、例年夏季以降に出現するヒラゴ～小羽マイワシの漁獲は低調に推移しました。

2010年の前半も、引き続き沖合からの2008年級群（2歳魚）の来遊が漁況を左右すると考えられます。

#### 【かたくちいわし】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、11月が1トン、12月が156トン（速報値）で、11月は不漁だった前年（1トン）並みで平年（64トン）を大きく下回り、つづく12月は前年（29トン）および平年（42トン）を大きく上回りました。これはマイワシ同様、11月下旬からの湾内への暖水波及によるものと考えられます。

魚体は、6～8cmの未成魚が主体で、10～13cmの小型～大型成魚も混獲されました。

佐島地区のまき網は、餌イワシとしての漁獲は継続したものの、全体的に低調に推移しました。

2009年の総漁獲量は主要定置網が3,533トン、まき網が371トンの合計3,904トンで、前年（3,511トン）および平年（4,193トン）とほぼ同水準でした。一方、漁期は例年と異なり2～7月に漁獲の大半が集中し、全体的に漁期が早まりました。太平洋全体の資源量は減少傾向ではあるものの依然高水準であり、2010年も引き続きこれまでと同程度の漁模様になると考えられます。

#### 【しらす】

相模湾のシラス船びき網による11、12月のシラス漁は、好漁だった10月から一転し、低調に推移したまま終漁を迎えました。

2009年の総漁獲量は717トン（標本船データからの推定値）で、過去10年間でもっとも好漁となりました（前年比1.4倍、平年比1.8倍）。解禁直後の3月中は湾

内の水温が低いため全域で極めて不調なスタートとなりましたが、暖水が波及した4月には一転して好漁となりました。5～6月は湾東部では不漁、湾西部で好漁と漁場により対照的な漁模様となりましたが、その後7～10月は再び全域で好漁が継続しました。一方、湾内のカタクチイワシ卵の分布量は低めで推移し、シラス漁獲量と傾向が一致しませんでした。

### ＝ 予報 ＝

#### 【まいわし】

今漁期は、2008年生まれの大羽マイワシおよび2009年生まれの中羽マイワシが漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、マイワシ太平洋系群の資源量から44トンと予測されますが、海況次第では沖合からの群がさらに来遊して、予測値を上回ることも考えられます。

\*縦軸：主要定置網+まき網

#### 【かたくちいわし】

今漁期は、小型成魚および大型成魚が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、11～12月の県内主要定置網における漁獲量から、約280トンと予測されます。

\*縦軸：主要定置網+まき網

#### 【しらす】

神奈川県の上りしらす漁は、1月1日から3月10日まで禁漁です。当センターでは解禁後の漁況予測のため、しらす船曳網漁業連絡協議会の協力により、今年も1～3月に禁漁期調査を実施します。

調査の状況については、次号で経過報告をします。

過去5年の1・2月漁期の漁獲量と今漁期の予測量

